UP選書

日本の労務管理

津田眞澂

東京大学出版会

UP選書

日本の労務管理

津田眞澂

東京大学出版会

はしがき

日本の労務管理は、いまや大きな転換点にさしかかっており、そのために、いままでの日本の労務管理の性格がなんであったかが重要な研究課題となっている。論者の中には、「日本には労務管理などなかったのだ」と主張する場合もあるほどであり、そういわれるほど労務管理についての関心と研究が深まってきたといえよう。

本書は日本の労務管理の性格規定を主要な分析対象として書かれている。本書の特徴はつぎの二つの点にある。第一に、日本の労務管理は欧米社会の組織体の労務管理とは質を異にする、ということを明らかにしようと努力した。そのために、Ⅰ 労務管理の思想と展開の第一章（労務管理の思想基盤）と第二章（職務の格付けと賃金率）によって、欧米社会の企業経営で展開されてきた労務管理を分析し、その思想基盤と具体的展開の検討に努め、いわゆる欧米型労務管理の性質をまず最初に明らかにしようとした。そこではF・W・テイラーやE・G・メイヨーの理論、あるいは最近の行動科学の理論をこまかに追究することは、紙数の関係から不可能であったが、著者としてはすでに『労務管理』（ミネルヴァ書房、一九六九年）、『人間関係』（日本労働協会、一九六九年）によって一応の検討を果たしたつもりでいる。むしろ本書のⅠでは、これらの労務管理の発想の根拠を求め、また具体化された実態を明らかにしようとした。その分析を果たした上で、Ⅱ 労務管理主導の労使関

係の第三章（労務管理の日本的特質）および第四章（労働市場の変化と労使関係）では、日本の労務管理が日本的労務管理といわれるべき特質を求めてみようとした。そしてさらに、Ⅲ 労務管理の方向では、第五章（能力主義管理と労働組合）、第六章（労務管理の課題と展望）によって、転換点にある日本の労務管理がもつ問題と、今後の労務管理の方向を展望することに努めた。

第二に、以上にみた本書の各章の標題が示しているように、本書は労務管理を労使関係での関連からとりあげようとしていることに特徴がある。ここで労使関係というのは、経営者・従業員関係、使用者・労働組合関係という二つの関係を含むものとしており、このように定義した労使関係のなかで機能する労務管理の性格を検討しようとこころみたのである。労務管理についての著者のこの視角は最初の著作である『労働問題と労務管理』（ミネルヴァ書房、一九五九年）以来一貫している。

最近は、情報収集の多面化ないし迅速化の必要のためであろうか、大部な研究書を求める人びとが少なくなってきた。じっくり腰をおちつけて本を読む時間的余裕も精神的ゆとりもなくなってきたのであろう。本書は小冊子であるが内容は手軽ではない。日本の労務管理について関心をもつ人びとに読みこんでいただければ幸いである。

本書が刊行されることについては、東京大学出版会の石井和夫氏の配慮をいただき、山下正氏にすっかりお世話になった。記して謝意をあらわしたい。

一九七〇年五月

著　者

目　次

はしがき

Ⅰ　労務管理の思想と展開

第一章　労務管理の思想基盤……三
一　合理主義の意義……四
二　個人主義の展開……一八
三　労務管理の成立の契機……二四
四　労務管理思想の系譜……三三

第二章　職務の格付けと賃金率……三八
一　アメリカにおける職務格付けと賃金率の特質……三八
二　職務の格付けと賃金率の決定……五七
三　賃金率決定における紛争……六二
四　職務、賃金率格付けで発生した問題の分析……七三

II 労務管理主導の労使関係

第三章　労務管理の日本的特質……九一

一　企業レベルの労使関係・労務管理を構成する諸要因……九二

二　労務管理主導の年功的労使関係……一〇〇

三　昭和三〇年代の変化の実態……一一一

四　労務管理の変化要因の検討……一二六

第四章　労働市場の変化と労使関係……一三五

一　労働市場の変化……一三五

二　年功的労使関係の再編成の意義……一五四

III 労務管理の方向

第五章　能力主義管理と労働組合……一六三

一　能力主義管理主張の理由……一六三

二　能力主義管理の現状……一七〇

三　能力主義管理と労働組合……一九二

第六章　労務管理の課題と展望……二〇一

一　昭和四〇年代の質的転換……二〇一

二　労務管理の課題……二一一

三　労務管理の方向……二二九

あとがき

あとがき

本書は、日本の労務管理に関する私の研究の中間報告にあたるべきものである。もともとこの研究はもっと大きな書物にまとめるつもりで進めていたが、昨年（一九六九年）は一ヵ年のうち八ヵ月は病床に臥すという状態になったために近々に研究の区切りをつけることが困難になった。そのために、さしあたって本書の形で公刊することにした次第である。

本書の章の中には、以下に記すように、すでになんらかの形で発表したものがある。すなわち、

第二章　職務の格付けと賃金率は「アメリカにみる労働の格付けと賃率決定」（『労働調査時報』労働調査研究所、一九六九年一一月号）、

第三章　労務管理の日本的特質は「職場の労使関係」（隅谷三喜男編『日本の労使関係』日本評論社、一九六七年）、

第四章　労働市場の変化と労使関係は図・表を除いた文章のみの同名の報告論文（『日本労働協会雑誌』日本労働協会、一九六八年六月号）、

第五章　能力主義管理と労働組合は「能力主義管理と労働組合の取り組み方」（『賃金実務』一九六九年六月一日号）、

として公刊されている。ただし本書に収録するにあたっては、論旨を変えないでかなり大幅な削除、

追加をして全体としてまとまりがあるようにした。また各章の冒頭には短いはしがきを付けて文脈をいっそうはっきりさせようとした。これらの章のうち、とくに第二章には、日本ではまだ紹介されていない事実がいくつか含まれていると考えている。

著者略歴

1926年　東京に生まれる.
1952年　東京大学経済学部卒業.
現　在　一橋大学教授，経済学博士.

主要著書

「労働問題と労務管理」(1959年，ミネルヴァ書房)
「労務管理」(1965年，ミネルヴァ書房)
「アメリカ労働組合の構造」(1967年，日本評論社)
「年功的労使関係論」(1968年，ミネルヴァ書房)
「労使関係の国際比較」(1969年，日本労働協会)
「人間関係」(1969年，日本労働協会)

現住所

東京都大田区久が原4の18の20

日本の労務管理　UP選書 46

1970年7月1日　初版
1976年12月15日　第5刷

検印廃止

©著者　津田眞澂（つだ まさみ）
発行者　加藤一郎

発行所　財団法人　東京大学出版会
113 東京都文京区本郷 東大構内 電話(811)8814 振替東京6-59964

三秀舎印刷・新栄社製本

1336-05466-5149